

水面に 水草 ただよう

しゃくじい
石神井池

水辺 しんぶん

かいぼりを軸とした水辺再生の取組をつたえる

No. 11
2025年8月

登録番号7(2)

発行
東京都
東部公園緑地事務所

編集
認定 NPO 法人 生態工房



石神井池の ツツイトモ

石神井池では2021年のかいぼり後に沈水植物ツツイトモが確認され、それ以降も継続的に生育しています。2025年はこれまででもっとも広い範囲で生育が確認されました。

かいぼりで水草が再生！

石神井池ではかいぼりを行った後の2021年5月に沈水植物ツツイトモの生育が確認されました。水中に葉を広げる沈水植物は、水質悪化や外来種による食害の影響を受けやすく、消失した地域もあります。石神井公園で沈水植物が確認されたのは数十年ぶりと思われ（持ち込まれた外来水草を除く）。

都内ではツツイトモの生育地が少なく、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。

干し上げと外来魚駆除が奏功

水草は長期間休眠する種子を作る習性があるため、水草の生育が途絶えていた場所でも、かいぼりや工事の後に



葉や茎が糸のように細いツツイトモ

ツツイトモのある池

井の頭池や皇居の濠にはツツイトモが群生しており、水草の隙間を泳ぐ小魚や、さまざまなトンボを見ることができます。



ツツイトモにとまるムスジイトンボ（井の頭池）



水中のツツイトモ

芽生えることがあります。

石神井池のかいぼりでも、干し上げによる低温や乾燥が発芽の刺激になったことに加え、池水の透明度の向上や、水草を食べるコイ（飼育型）などの外来魚が取り除かれたことがツツイトモの生育につながったと考えられます。（裏面へ）

ピックアップ! News

アメリカザリガニ対策実施中

アメリカザリガニは昆虫や貝類などの水生生物を捕食するほか、ツツイトモなどの水草にも甚大な被害をおよぼすことから、石神井公園では防除に取り組んでいます。

アメリカザリガニの活動期である4月から10月にワナを使って捕獲しています。また、ひょうたん池には来園者が捕ったアメリカザリガニを収容する回収ボックスがあり、大勢の来園者が防除に協力しています。

このほか、ワナを使った防除活動を体験しながら水生生物を観察するイベントも不定期で開催しています。

水草や水生昆虫が豊富な池を目指して、引き続きアメリカザリガニ対策を進めていきます。

2025年の生育状況

2025年のツツイトモは、5月上旬の切れ藻の確認を皮切りに、石神井池の広い範囲で池底から伸長している株が確認されました。切れ藻の量も多く、護岸付近に多数の切れ藻が流れ着いている様子が見られました。春期に池の透明度が高い期間が長く続いたことが、良好な生育につながったのかもしれない。

しかし5月下旬になると切れ藻の量は減少し、透明度が低下して水中での生育も確認できなくなりました。6月には消失したものと思われる。

これまでのところ、石神井池のツツイトモは、生育期間が短く、生育地点も局所的です。池の環境がさらに改善されることにより、ツツイトモが増加していくことが期待されます。



石神井池のツツイトモ分布状況 (2025年5月) ※切れ藻を除く



大盛況! 湿地の保全イベント

湿地は、手を入れないでいると枯れ草の堆積などによって陸地へと変わっていきます。そのため石神井公園では、湿地の環境を保つ目的で草刈りなどの管理を行っています。この作業を公園管理者と活動団体、さらに一般参加者も加わった協働イベントとして行いました。

2025年冬には、枯れ草を取り除き、堆積土を掘るイベントを3回実施。計109名が参加しました。7月の草刈りイベントには57名が大集合。密生しているマコモやヒメガマを刈って水面や泥地が見えるようにすると、チョウトンボやコシアキトンボが飛来しました。

参加者から、普段訪れている石神井公園に恩返しできたという声も聞かれるなど充実感のあるイベントになりました。良好な湿地環境を保つために今後もこうした機会を設けていきます。

しゃくじい自然図鑑

三宝寺池の小島では、春になるとゴイサギ、コサギ、アオサギが繁殖のために集まります。2025年は約60巣が確認されました。双眼鏡を使うと、5〜6月にはあどけないヒナの顔を見ることが出来ます。



サギ類のコロニー (集団繁殖地)

